



タンザニア国旗

ザンジバル便り Vol. 2



ザンジバル地域旗

皆さんこんにちは。2019年4月よりタンザニア連合共和国の国連人口基金（以下、UNFPA）ザンジバル事務所に赴任しております丸山真里奈と申します。ザンジバルの魅力と現在対策に追われている新型コロナウイルス関連業務についてご紹介したいと思います。

世界でも有数の観光地となっているザンジバルですが、最も有名なのは2000年にUNESCOの世界遺産に登録されたストーンタウンです。歴史を通じてアラブ、ポルトガル、オマーン、イギリス等の影響を受けたザンジバルのストーンタウンには、アラブ、スワヒリ、ヨーロッパの石造建築が数多くの残り、それぞれの文化が融合した独特の雰囲気を感じることができます。

一番目を引く建物は1883年に建設されたThe House of Wonders（驚嘆の家）です。スルタン（君主）の王宮の一つであり、ストーンタウンで最も高い建物です。当時、東アフリカで初めてエレベーターが設置された建物として人々を非常に驚かせたため、「驚嘆の家」と呼ばれるようになりました。現在は博物館となっています。



ストーンタウンには細い道がまるで迷路のように張り巡らされており、地元民でも道に迷うほど複雑です。しかし、迷い込んだ裏路地で素敵な店を見つけたり、思いがけない出会いがあっ



たりと、いつも新しい発見がある不思議な街です。また、ストーンタウンでは多くの木彫りの扉（ザンジバルドア）を見ることができます。この扉にはアラブ様式とインド様式があり、コーランや動植物などの細かいレリーフが施され、その美しさと重厚さは見る者を圧倒します。この豪華な扉を構えることが人々のステータスになっているそうです。

新型コロナウイルスと国際機関の対応

タンザニアでは3月14日に最初の感染者が確認されました。エボラ出血熱の教訓もあるタンザニアの初動は迅速で、政府主導の新型コロナウイルス対策班（調整、調査監視、症例管理、検査施設、リスクコミュニケーション&コミュニティ参加、ロジスティクス、保健システム強化等分野別）ごとに対策を進めることになりました。国際機関は迅速に予算調整を行い、移動制限や集会の禁止で実施が困難になった活動の予算を新型コロナウイルス対策用の予算に組み替えるなどの対応を行いました。

UNFPA ザンジバル事務所は移動制限や休校による家庭内暴力の増加に対応すべく、女性と子どもヘルプラインの支援のために、コールセンターの人員の補充、自宅でもコールに対応できるよう必要機器の提供、心理社会的支援専門家の派遣等を行い、コールセンターの体制を強化しました。また同時に新型コロナウイルスと家庭内暴力に関するメッセージをラジオで発信するなどの啓発活動も行なっています。

加えて、リプロダクティブ・ヘルス・サービスを継続的に提供できるよう、医療従事者の防護グッズや避妊具の手配・供給を行うと同時に新型コロナウイルス対策を目的とした母子保健ガイドラインの作成・配布を行い、感染予防方法、ハイリスク妊産婦へのサービスの提供や感染防止等の知識の強化を支援しました。また、情報・教育・コミュニケーション教材を使用して、コミュニティや妊産婦に向けたメッセージを発信しています。

しかしながら、4月末にかけて、新型コロナウイルスをめぐる政府の発言に変化が生じてきました。新型コロナウイルスによる影響を一貫して軽視してきた大統領の発言の影響で、新型コロナウイルスの存在自体を疑問視するような事態に陥ってしまったのです。4月29日からは感染者数や死亡者数も公表されておらず、5月下旬に空港閉鎖も解除されました。どうやら新型コロナウイルスは収束したという空気が漂い始め、6月になるとマスクを着用する人も減少し、レストランなども営業を再開し始めました。タンザニア政府に対しては、WHOのアドバイスに沿ったコロナ対策をとるよう、各組織の代表やレジデントコーディネーターレベルで働きかけを行いつつ、UNFPAとしても関連省庁との調整・コロナ対策活動の継続に尽力しています。

